

令和3年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立草加南高等学校)

目指す学校像	困難に挑戦する強い心と豊かな人間性を育み、グローバルな視点をもって社会に貢献する人材を育成する
--------	---

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの実践、指導と評価の一体化を進め、学習指導の質を高める 一人ひとりの生徒理解を基礎とし、自主性を促しつつ、適切かつ組織的な生徒指導をすすめる 多様な進路実現に向けきめ細かな指導を継続すると共に、大学入試改革に対応できる進路指導を確立する グローバル人材育成事業及び本校独自のプログラムを通し、地域に開かれた学校づくりを推進する
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	8名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標				年度評価(令和4年2月1日 現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業に取り組む姿勢は高く評価できる。対話的学び等を通して、探究力の向上を進めていく。 「主体的・対話的で深い学び」の実践と指導と評価の一体化を進め、学習指導の改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話力、探究力等の育成に着眼した授業を実践する。 観点別評価の在り方の検討を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> 授業公開や研究授業を実施し対話的学習の実践を進める。 朝学習、学習支援アプリ、家庭学習等を活用し、目標意識と学習意欲を向上させる。 国際バカロレア等特色のある教育検討事業に参加し、教育課程研究及び授業改善を行う。 観点別評価の基準等の作成 	<ol style="list-style-type: none"> 授業公開、研究授業を通して、対話的授業や効果的なICT活用 成績優良者の増加(昨年度1, 2学期平均10.9%)授業理解度の向上(昨年度85%)朝学習を効果的に実施。 先進校視察、ワークショップ等を教育課程研究に反映 観点別評価の基準を共有(研修会、教育課程委員会等)(新規) 	<ol style="list-style-type: none"> 授業公開、研究授業(11月1月5回)双方向通信授業(リモート・オンライン授業実施全教員9月10月) 成績優良者の増加 11.5%(昨年度比0.6%アップ)授業アンケート理解度87%(昨年度比2%アップ) 大宮国際中等教育学校視察(10月)特色ある教育課程検討事業会議(2回) 観点別評価研修会3回(教育課程委員会5回:ワーキングチーム設置) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にも実感できる形で「主体的で対話的な手法」をさらに授業に導入していく。また、観点別評価において、指導と評価の一体化を共有し組織的に取り組む。 対話力、探究力の基礎となる学力を向上させるため、家庭学習時間の増加が課題である。(朝学習、学習支援アプリの活用)
2	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や規範意識は、ほぼ確立している。行事や部活動等を通して、多様な交流を生み、協働し対話力を向上させる活動を提供していきたい。 受動的に規範を捉える段階から、自主性・自律性の力を伸ばす段階である。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な交流を生み、自らを内省的に考察し、自己肯定感を醸成する機会を提供する。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校行事、部活動等を通して、対話力自立性等を向上させる。 メンタルヘルス研究推進校として、生徒理解を基礎とする組織的指導を進める。 様々な講演会及びワークショップを通して、規範遵守の意義や自律意識の向上を学ぶ機会を提供。 	<ol style="list-style-type: none"> 体育祭、文化祭等の学校行事及び部活動を通して、挑戦する場を提供 特別支援委員会、特別支援コーディネーターを活用し、組織的な生徒理解の推進と相談体制の整備(新規) 関係機関との連携と迅速な対応 交通安全教育、人権教育、ネット社会、薬物乱用防止の講演会等実施と自律意識向上の機会の提供 	<ol style="list-style-type: none"> 感染症防止対策を徹底し、体育祭(5月)、文化祭(9月)を実施 特別支援委員会を活用し、支援が必要な生徒の情報と対応策の共有(5回)メンタルヘルス研究推進校(1学年授業2回、教職員研修会実施) 自転車運転マナー講習参加:埼玉県警と連携(8月)人権教育講演会:障害者スポーツ、東京2020オリパラ教育連携(12月)薬物乱用防止等講演会:草加警察連携(7月) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援委員会をさらに有効利用し、ヤングケアラー、貧困、性の多様性などの先の見えない社会での進路への不安に寄り添い、丁寧に対応する。 コミュニケーション力育成のため、行事やワークショップ等を実施する機会を確保する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望は多様であり、3年後を見通した進路意識の育成が必要である。 個々の生徒の進路実現に向けて、キャリア教育等を進め、さらに職業意識を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の進路実現のため、体系的かつ組織的な進路指導を展開する。 	<ol style="list-style-type: none"> 計画的なガイダンス等を実施し、キャリア意識を高め、進路実現へつなげる。 大学入試対策講座等を継続し、参加率を上げる。 英語検定等に係る学習指導を研究し合格率をあげる。 	<ol style="list-style-type: none"> 進路行事の生徒満足度の向上(昨年度肯定の割合70%)各種ガイダンス、大学、専門学校等との連携 大学入試に向けた対策講座の実施 進学補習、小論文指導、面接指導 英語検定等の合格者数の増加(R2英検準2級と2級の合格者数90名) 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の進路実現のための取組調査:取組をしていると回答69.8%:昨年度65.2% 夏季進学補習26講座102回(全学年講座)参加人数のべ452名(昨年度419名)課業日の小論文指導、面接指導等は全教職員で実施 英語検定10月実施(全員受検)年間合格者:準2、2級95名(昨年度90名)・英検準1級合格2名(通年) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が進路実現のためモチベーションを向上させることが先決である。各分野のガイダンス、進学補習等を丁寧に行っていく、英語検定等の学習時間の保障により「学習の雰囲気作り」を意識的に行っていく。
4	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関との交流等グローバル教育の実践が、コロナ禍により制限されている。これまでのグローバル教育、生徒会、部活動等の取組の継続を模索しつつ、次のアプローチを検討及び実施していくことが急務である。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動を積極的に発信し、生徒の将来を見据えたグローバル教育を展開していく。 	<ol style="list-style-type: none"> HPの効果的な活用と学校説明会等の工夫により、本校の魅力を地域に発信する。 東京2020オリパラ教育推進校として、国際社会に貢献できる人材を育成する。 国際バカロレア教育手法を研究し、語学研修等を充実させ、生徒の語学への関心を一層向上させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ホームページ更新回数 生徒募集等の発信方法と内容の改善 「総合的な探究の時間」の有効活用とオリパラ観戦のリフレクションを効果的に地域へ発信 講演会の実施及び国際社会とスポーツの関係を考察 SDGsワークショップとフィールドワークを実施(新規)・国内語学研修を効果的に実施(7~8月) 	<ol style="list-style-type: none"> 個別相談で外部機関と連携。個別相談会場(草加、越谷、春日部)学校紹介(オンライン発信:大宮ソニック)・中学校訪問66校学校説明会6回(草南ライブ、文化祭含む) 東京2020オリパラ教育推進事業(オリンピックレガシー講義7月 プレゼン1月等) SDGsワークショップを実施(10月1月) 国内語学研修(7~8月)British Hills 48名参加(全校集会、学校説明会等で報告) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 草加南の魅力をいかに中学校や地域に発信するかは常に課題である。今年度は、民間企業と連携し、本校のPRの仕方を工夫した。次年度は、中学校や地域等のリサーチ結果をもとに効果あるPRを実践していく。 語学研修(海外、国外)や語学的な授業の充実を進める。

実施日(令和4年3月7日)
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>オンライン授業等のICT活用を通しての学習活動は高く評価しているが、その動機付けが高まるよう取組状況を確認できるシステムを構築したほうがよいのではないかと。また、学習支援アプリの効果的な活用が不十分である。生徒の自律性を高めるため工夫が望まれる。</p> <p>行事を中止にすることは簡単だが、工夫して開催したことは高く評価している。課題を抱えた生徒に対してメンタルヘルス研究推進校として期待している。コロナ禍で制限されている中、外部機関の講演会やワークショップを例年と同様に実施したことは、今後も継続を望んでいる。</p> <p>英検の2級と準2級の合格数を合わせた表記は改め、もっと明確なゴールを設けた方がよいのではないかと。大学入試に向けた学習、小論文、面接指導は公立高校でも手厚い指導ができることを中学校にアピールするべきである。</p> <p>ホームページからの情報発信は以前より多くなり、教育活動がよくわかるようになった。生徒募集は重要な課題である。中学生のニーズに敏感になり、より発信型の活動を期待する。また、語学研修は魅力の1つである。参加者増加のため工夫して継続していただきたい。</p>